

「食」「エネルギー」「ケア」の自給圏に ―流域を生かした地域完結型まちづくり―



東近江市森と水政策課課長補佐 ● 山口 美知子

◆◆◆ 豊かな自然資本の上に
成り立つ東近江市

平成の大合併を経て、鈴鹿山脈から琵琶湖まで一つの水系を所管することとなった東近江市には、市面積の半分以上を占める豊かな森林が広がります。その水源の森から供給される豊かな森林



鈴鹿山脈から琵琶湖までつながった東近江市

資源は全国に木地師（木工品を製造する職人）を輩出し、豊かな水資源によって農業や水産業を発展させました。また、豊富な水の恵みは、麻織物に代表されるものづくり産業を発展させ、近年では多くの工場の水源としても利用されています。このように、東近江市で自然資本を生かして人の営みが成り立つには、自然と共生し皆が幸せに暮らすための知恵が育まれる必要があります。それらは「惣村自治」としてこの地域に古くから根付いてきました。

◆◆◆ FEC自給圏の創造

自然との共生を前提に、今後このまちで人が幸せに生きていくために必要な要素として「食Food」「エネルギーEnergy」「ケアCare」の三つがあると考え、これらを出来るだけ自給できる地域づくり（FEC自給圏の創出）を進めることとしています。また、これらを外から与えられるのではなく、地域資源を最大限活用して自然

と共生しながら地域内で実現していくこと（地域完結型）が求められています。この考え方で早くから取り組まれてきたのが、当市が発祥の地である菜の花プロジェクト（地域自立の資源循環サイクル）です。子や孫が安心して住める地域づくりを理念に掲げ、食とエネルギーの自立にチャレンジしてきたこのプロジェクトは、全国に広がり近年では海外にも広がっています。

◆◆◆ 「あいとうふくしモール」の誕生

FEC自給圏の典型事例といえるのが「あいとうふくしモール」です。年をとっても、認知症になっても、障害があっても幸せに暮らせる地域を目指して、高齢者支援の事業所、障がい者の支援をする事業所、そして地域の高齢者がイキイキと働く農家レストランの3施設が連携する介護・医



あいとうふくしモールの全景

療の拠点が整備されました。この「あいとうふくしモール」では、定期的に「もったいないやりとり市」が開催され、近所の住民が自慢の産品を持って集まります。また、この3施設の屋根には全て太陽光パネルの市民共同発電所が設置され、暖房は地元で製造された薪ストーブが導入されています。更に、地域への配食サービスも担うことで、「介護」と「食」と「再生可能エネルギー」を一体的に整備するFEC自給圏の創出に貢献する仕組みとなっています。

◆◆◆ 様々な人が連携して課題に取り組む

あいとうふくしモールに代表されるように、東近江市では様々な分野の方々が連携し、地域の課題解決に取り組んでいます。獣害に苦しむ農家を救うため、雑木林を伐採し薪にするプロジェクト



もったいないやりとり市の開催日

（薪プロジェクト）や、地域の廃材（ロウと廃炭）で着火剤を製造するプロジェクト（TEAM CHAKKA）では、長い間引きこもっていた地域の若者らが活躍し、彼らが地域の困りごとを解決する担い手となっています。山間部の高齢者を支えるプロジェクト（チーム永源寺）では、診療所の医師や駐在所、薬局、地域おこし協力隊などが連携し取り組みを進めています。更には、麻織物の工場をリノベーションして、滋賀のいいものを伝えていくおしゃれなコミュニティスペース（ファブリカ村）が民間から生まれ自主運営されています。また、地域自治組織を中心に農協や商工会、民生委員なども巻き込んでFEC自給圏の創造を目指すプロジェクト（蒲生エコまちプロジェクト）も始まっています。人と人がつながり実践される地域の取り組みを上げればきりが無いのが東近江市の特徴です。



働き者の若者が支える薪プロジェクト

◆◆◆ 人と人、人と自然が共生する地域像

しかし、一方で近年のライフスタイルの変化により人と自然の共生の姿は必ずいぶん様変わりしました。東近江市でも少しずつ景色が変わりつつあります。手入れされない雑木林や人工林の増加、川や湖の水産資源の激減などは、貴重な自然資本が毀損されている代表事例です。私たちには、健全な自然資本との共生をベースに、人と人のつながりの中でFEC自給圏を創造するという壮大なミッションが与えられていると強く認識しています。また、このミッションは行政だけで達成できるものではありません。地域全体でこのミッションを共有し、多くのリーダーが支えあいながらチャレンジを繰り返してイノベーションを起こしていくことが重要です。

東近江市は、この4月から市民環境部に「森と水政策課」を設置しました。当課では三つの理念を掲げています。

- ・ 今あるものを保全し壊れたものを直す「保全・再生」
- ・ 守るべきものやそれに必要な知恵を、分野や世代を超えて共有する「交流・学習」
- ・ 自然資本を賢く利用する「賢明な利用」

これらの理念は、どれも自然資本と共生するのに必要な要素といわれているものであり、今後地域の皆さんとも共有していきたいと考えているものです。人と人、人と自然が共生する地域像の実現を目指して、地域の皆さんと一緒に様々なチャレンジに取り組んでいきたいと思えます。